

明けましておめでとうございます。
謹んで新年のお祝いを申し上げます。

今年は、日本海側の各地で元旦から大雪が降り、大変だったと思います。元日の東京でも小雪がぱらつき、木立の枝等にうっすらと積もったほどでした。冬の西高東低の気圧配置のため、日本海側は雪や雨で、太平洋側は乾燥した晴天という冬の天気の特徴がよく出たお正月ではなかったでしょうか。

さて、皆様、新年を心新たな気持ちで迎えられたことでしょうか。今年はどういう年になるのでしょうか。ご結婚を予定されている方、赤ちゃんが産まれる方、新小学一年生になるお子様をお持ちの方、大学入試を目前に控えている方、今春から企業や自治体に就職が決まっている方、今年還暦を迎える方、今年傘寿を迎える方等、様々な方々がいろいろな思いで、新しい年に願いをかけたことでしょうか。皆様のご多幸を心よりお祈り申し上げます。

昨年末に政府は3.5兆円規模の「地方への好循環拡大に向けた緊急経済対策」を閣議決定しました。そのうち生活者・事業者への支援に1.2兆円、地方の活性化に0.6兆円が当てられています。そのハイライトは、地方活性化を目的とした約4200億円にものぼる交付金です。消費喚起・生活支援型（子育て支援、地元での商品券配布、特産品の割引販売等）に2500億円、地方創成型（企業誘致、iターン・uターン促進等）に1700億円というもので、今後詳細を詰め、使い道は自治体に委ねられます。

過去何十年にわたって「地方活性化」を名目に、たくさんの税金が充当されて来ましたが、ほとんどがハコモノ建設（道路、施設等）に使用され、結果として大企業（それも地域外の大企業）に渡ってしまうことも多かったのではないのでしょうか。本来有るべき、地方住民目線からの立案、利用がなされて来なかったため、「地方の衰退、東京の一極集中」が促進されてきました。今回、「地方創成」という言葉を使い、政府が大々的に打ち出した以上、今までとは全く違う角度から、地方の自主的な取組み支援に集中してほしいものです。人口減が続く地方においては、残された時間はそんなにありません。

一方、日本の貧困率が上がっています。厚生労働省が昨年7月にまとめた「国民生活基礎調査」によりますと等価可処分所得（可処分所得を世帯人数の平方根で割ったもの）の中央値を半分にした額に当たる貧困線（2012年は122万円）に満たない「相対的貧困率」は16.1%だったそうです。これは、6人に一人が貧困層に入っていることとなります。数字的なことより社会の実感として、ワーキングプア（貧困線以下で働く人）、ニート、カフェ難民、非正規雇用者等の人達が増えているということがあります。

日本はいつから若者達がまともな生活をするのできない社会になってしまったのでしょうか。経済的に自立出来ない状況では、若者達が結婚して子供を育てていくことには相当な困難が伴うことでしょう。更に、超高齢者社会がもう目の前に来ていて、若者の負担増が間違いなく増える状況を踏まえると、若者達からしてみたら「こんな社会にしたのは誰だ」と文句も言いたくなるのは尤もなことです。

「一億総中流社会」と言って、国民が皆同じような生活をしていると言う思いを持って暮らしていた時代がうそのようです。1991年のバブル崩壊から社会構造はどんどん変わり、特に1990年代後半の所謂「小泉改革」で、アメリカ型のビジネスモデルを推奨し、競争原理の浸透を進め、経済効率、成長性優先を推し進めることで、富裕層の拡大、「勝ち組」賞賛の社会に移ってしまったことは否めない事実です。社会の精神構造面からも、強者優先が当たり前となり、「儲けること」や「金持ちになること」を皆が認める風潮が根付いてしまったと思います。

格差社会に移行し、その度合いがどんどん深まっているのが現実です。

毎年増えている膨大な国の借金を抱え、格差社会が拡大している実態にどう対処して行くのでしょうか。元旦の朝日新聞に、「失われた平等を求めて」という標題のインタビュー記事が掲載されました。昨年、日本でも翻訳本が発行されて、大変な話題になった「21世紀の資本」の作者である経済学者トマ・ピケティ教授の話です。世界中で広がっている富の格差を18世紀からの膨大なデータをもとに実証分析し、資産を持つものにどんどん富が集中し、格差が発生していることを示した彼は、資産への累進課税と社会的国家（福祉国家より広い意味）を提案しています。

小生はまだこの本を読んでいませんが、とても気になります。低成長構造の21世紀には、資産を持ったものが優位に立ち、不平等がどんどん進んでいくことはどうしても避けなければなりません。そうしませんと、弱者側にいる地域社会の活性化などはまず困難と言えましょう。

超高齢者社会を象徴するように、小生の両親は二人とも健在で、父が97歳、母が90歳です。二人とも介護サービス等を受けることなく、二人で自宅生活をしています。私がこうして自分のビジネスに集中できるのも、両親や家族が健康で元気な生活を送っているからと言えます。その父が書いたエッセイ、旅行記、短歌等が沢山あるので、昨年9月に、兄弟3人の後書きを添えた一冊の本を自費出版し、父にプレゼントしました。

最後は、父の短歌のなかで私が気に入っているいくつかを記載して、締めたいと思います。

秋来れば 病院窓に叙情せし 過去を偲びて 今日も自愛す
柿の実の 実りし枝が お辞儀する 今年も豊作 索で吊り揚げ

カレンダー 一枚めくれば 足音が 彼岸へ向かう 道のりはかり
雑草も 生あるものと 意義あれば 散歩の道も 無上の眺め

清流の せせらぎ山に 木霊して 落葉の谿 (たに) に 一人佇 (たたず) む
邯鄲 (かんたん) の 夢から覚めし 人のごと 夢の一片 (ひとかけ) いかが過ぎしと
今の夜を 閑雲野鶴 (かんうんやかく) に 暮せども 戦時体験 脳裏離れず
空中に 楼閣描き 躍る瀬も 八十路を超えて 空々寂々

戦争体験を持った父の時代はもうすぐ終わります。一人の人間が生きた時代を次に伝え、私自身の時代を作り、次の若者へ引き継ぐことは大事なことと考えます。個々人が大事にされ、日本の文化、伝統、しきたりがしっかり伝わっていく社会づくりに少しでもかかわることができるよう、今年一年も頑張っていこうと思います。

本年も皆様方の温かいご支援・愛顧をお願い申し上げます。

平成27年元旦

株式会社サイモンズ
代表取締役社長
斉川 満

